



## 2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年11月11日

上場会社名 株式会社いつも 上場取引所 東  
 コード番号 7694 URL https://itsumo365.co.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 坂本 守  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CF0コーポレート本部長 (氏名) 杉浦 通之 (TEL) 03-4580-1365  
 四半期報告書提出予定日 2022年11月11日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (オンライン開催)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		調整後EBITDA※		営業利益		経常利益		親会社株主に 帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	5,534	—	13	—	△112	—	△111	—	△445	—
2022年3月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 △445百万円(—%) 2022年3月期第2四半期 ー百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	△77.84	—
2022年3月期第2四半期	—	—

(注) 1. 当社グループは、前第3四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、2022年3月期第2四半期の数値及び対前年同四半期増減率並びに2023年3月期第2四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在するものの、1株当たり四半期純損失のため記載しておりません。

※調整後EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却費+M&amp;Aにかかる取得費用

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	6,275	1,963	31.3
2022年3月期	6,926	2,407	34.8

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 1,963百万円 2022年3月期 2,407百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		調整後EBITDA※		営業利益		経常利益		親会社株主に 帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,718	0.6	266	△66.2	110	△81.7	90	△84.4	△305	—	△53.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※調整後EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却費+M&amp;Aにかかる取得費用

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2023年3月期2Q	5,741,100株	2022年3月期	5,691,000株
2023年3月期2Q	—株	2022年3月期	—株
2023年3月期2Q	5,728,001株	2022年3月期2Q	5,611,534株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年9月30日)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種の進展により社会経済活動の正常化が進む一方で、半導体をはじめとする供給制約や急速な円安に伴う物価上昇、不安定な国際情勢に伴うエネルギー・資源高の慢性化や物流網の混乱、海上運賃の高騰等が世界的に深刻化しており、景気回復のペースは鈍化しております。

当社グループの事業を取り巻く環境は、コロナ禍での巣ごもり消費による一時的な需要が落ち着きつつありますが、依然として中長期的には今後もECでの購買は増加していくものと見込んでおります。株式会社富士経済が公表した「通販・e-コマースビジネスの実態と今後2022」によれば、2021年のEC市場の規模は12.5兆円、さらに2022年の見込みでは13.4兆円、2023年では14.2兆円と、EC市場は着実に成長を続けていくと予想されています。

このような経営環境の中、当社グループは「日本の未来をECでつくる」をミッションとして掲げ、メーカー企業向けEC事業の総合支援及びD2C・ECブランドのM&A・成長支援サービスを提供してまいりました。

ECマーケットプレイスサービスにおいては、取扱ブランドが堅調に成長を続ける一方で、一部取扱いブランドでは、新型コロナウイルス感染症による行動規制の緩和、世界情勢の変化に伴う商品仕入れの不安定化を背景に販売額が鈍化したしました。また、当社グループで取扱うブランドでは、前年度に獲得した新規ブランドの売上寄与もあり前年同四半期累計期間と比較し増収の結果となりましたが、中国のゼロコロナ政策や円安等、外部環境の悪化による影響を受け、当初計画を下回る結果となりました。これに伴い、のれんについて減損損失を計上しております。

ECマーケティングサービスにおいては、継続契約の取引が好調に推移したこと、また既存取引先との追加契約もあり前年同四半期累計期間と比較し増収の結果となりました。また、本サービスにおける売上高のうち、契約期間に応じ安定的な収益を継続的に見込むことが出来る積み上げ型のビジネスモデルであるストック売上高の割合は、当第2四半期連結累計期間で93.6%となり、安定した収益の獲得に貢献しております。

これらの結果、ECマーケットプレイスサービスの売上高は4,275,204千円、ECマーケティングサービスの売上高は1,259,209千円となり、当第2四半期連結累計期間の売上高5,534,414千円、営業損失112,169千円、経常損失111,640千円、親会社株主に帰属する四半期純損失445,875千円となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ① 資産、負債及び純資産の状況

## (資産)

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、6,275,574千円となりました。その主な内訳は、現金及び預金が3,142,179千円、売掛金が971,564千円、商品及び製品が1,223,384千円、固定資産が700,573千円であります。

## (負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、4,311,682千円となりました。その主な内訳は、買掛金が824,542千円、長期借入金が1,631,527千円であります。

## (純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、1,963,892千円となりました。その主な内訳は、資本金が737,779千円、資本剰余金が726,279千円、利益剰余金が499,874千円であります。

## ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間の末日における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末と比較して979,839千円減少し、3,142,179千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、753,261千円となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純損失352,690千円の計上、棚卸資産の増加373,060千円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、238,652千円となりました。主な要因は、差入保証金の差入による支出129,030千円、貸付けによる支出100,000千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、12,074千円となりました。主な要因は、短期借入金の純増額332,304千円、長期借入金の返済による支出322,244千円等によるものであります。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の連結業績予想につきましては、最近の業績動向等を踏まえ前回発表時の予算を修正いたしました。詳細は、2022年10月31日公表の「特別損失(のれんの減損損失)の計上及び連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,122,019	3,142,179
売掛金	872,095	971,564
商品及び製品	842,102	1,223,384
仕掛品	15,032	5,067
その他	209,767	232,997
貸倒引当金	△757	△192
流動資産合計	6,060,260	5,575,001
固定資産		
有形固定資産	20,264	18,140
無形固定資産		
のれん	326,533	—
その他	64,551	38,328
無形固定資産合計	391,085	38,328
投資その他の資産		
その他	459,549	648,505
貸倒引当金	△4,400	△4,400
投資その他の資産合計	455,149	644,105
固定資産合計	866,499	700,573
資産合計	6,926,760	6,275,574
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	703,950	824,542
短期借入金	300,000	700,000
1年内返済予定の長期借入金	704,494	614,096
未払法人税等	129,290	63,568
賞与引当金	128,116	78,317
その他	618,028	395,569
流動負債合計	2,583,879	2,676,095
固定負債		
長期借入金	1,931,069	1,631,527
その他	4,060	4,060
固定負債合計	1,935,129	1,635,587
負債合計	4,519,008	4,311,682
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	736,752	737,779
資本剰余金	725,252	726,279
利益剰余金	945,747	499,874
自己株式	—	△39
株主資本合計	2,407,751	1,963,892
純資産合計	2,407,751	1,963,892
負債純資産合計	6,926,760	6,275,574

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	5,534,414
売上原価	4,292,351
売上総利益	1,242,062
販売費及び一般管理費	1,354,232
営業損失(△)	△112,169
営業外収益	
受取利息	125
雑収入	14,531
その他	900
営業外収益合計	15,556
営業外費用	
支払利息	6,026
支払手数料	2,996
その他	6,004
営業外費用合計	15,027
経常損失(△)	△111,640
特別損失	
減損損失	225,391
固定資産除却損	14,549
その他	1,108
特別損失合計	241,050
税金等調整前四半期純損失(△)	△352,690
法人税、住民税及び事業税	47,104
法人税等調整額	46,080
法人税等合計	93,184
四半期純損失(△)	△445,875
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△445,875

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純損失(△)	△445,875
四半期包括利益	△445,875
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	△445,875



## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)	
当第2四半期連結累計期間	
(自 2022年4月1日	
至 2022年9月30日)	
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前四半期純損失(△)	△352,690
減価償却費	18,330
減損損失	225,391
固定資産除却損	14,803
のれん償却額	101,142
賞与引当金の増減額(△は減少)	△49,798
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△564
受取利息及び受取配当金	△125
支払利息	6,026
助成金収入	△900
売上債権の増減額(△は増加)	△99,468
棚卸資産の増減額(△は増加)	△373,060
前払費用の増減額(△は増加)	△31,571
仕入債務の増減額(△は減少)	120,591
未払金の増減額(△は減少)	△194,774
未払費用の増減額(△は減少)	10,313
前受金の増減額(△は減少)	△4,990
その他	△21,270
小計	△632,614
利息及び配当金の受取額	125
利息の支払額	△6,379
助成金の受取額	900
法人税等の支払額	△115,293
営業活動によるキャッシュ・フロー	△753,261
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	△2,487
無形固定資産の取得による支出	△2,087
貸付けによる支出	△100,000
差入保証金の差入による支出	△129,030
その他	△5,047
投資活動によるキャッシュ・フロー	△238,652
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
新株予約権の発行による収入	2,054
長期借入金の返済による支出	△322,244
短期借入金の純増減額(△は減少)	332,304
その他	△39
財務活動によるキャッシュ・フロー	12,074
現金及び現金同等物に係る換算差額	-
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△979,839
現金及び現金同等物の期首残高	4,122,019
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,142,179

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。